



明治大学
MEIJI UNIVERSITY

アクティブ・ラーニングで学ぶ 政治学の基本概念 正義とは何か

平成27年12月18日

明治大学 情報コミュニケーション学部准教授
政治学博士 川島 高峰

■ 目次

- I. アクティブ・ラーニング導入前後のシラバス比較（2013年～2015年）
- II. アクティブ・ラーニングを大幅に導入してみた2016年
- III. 反省と問題提起



明治大学
MEIJI UNIVERSITY

アクティブ・ラーニング導入前後の シラバス比較（2013年～2016年）



■ 政治学 講座概要 2014～2016年

- 明治大学 情報コミュニケーション学部
- 講座名称 政治学
- 科目配当 1、2年次
- 履修者数 約75～100名 → 実質出席者数 約60～80名
- 教室定員 120～150名
- 情報環境 情報機器対応は教卓のみ 学生の無線接続可

■ 従来の講義概要 アクティブ・ラーニング導入以前

1. 座学 政治と国家、規範と現実
2. 座学 権力と正当性
3. 座学 ソクラテス アイデア説
4. 座学 プラトンへ 政治学の形成
5. 座学 プラトン
6. 座学 アリストテレス 1 ニコマコス倫理学と政治学
7. 座学 アリストテレス 2 正義、最高善、幸福
8. 座学 ホッブス 平等と競争
9. 座学 ロック
10. 座学 ルソー
11. 座学 一般意志 存在するのか
12. 座学 選挙 1
13. 座学 選挙 2
14. 座学 選挙 3
15. 座学 総括

2002年以来、携帯・スマートフォンを活用した授業時内アンケート実施、多人数教室における学生コメント集成の作成等、**インタラクティブな講義**に努めていた。

「大教室における携帯電話を利用した授業の管理・運営の改善」、第13回情報教育方法研究発表会予稿集、2004年7月1日、pp. 31-32

■ 2014年政治学 アクティブ・ラーニング導入

1. 座学 ガイダン 基本概念 政治
 2. 座学 基本概念 権力
 3. 座学 基本概念 国家
 4. 座学 ソクラテス
 5. 座学 ソクラテスからプラトン
 6. 座学 プラトン
 7. 座学 アリストテレス
 8. 座学 ルソー
 9. 座学 ホッブス
 10. A L 選挙に行かない若者について
 11. A L A Lの議題決定
 12. A L 選挙結果について
 13. 座学 政党とは
 14. 座学 先進国における政党政治の限界
- ◆ 試験（2015年1月29日実施）

A L = Active Learning

■ 2015年政治学 模擬国会導入

- | | |
|---|---------------|
| 1. 座学 民主主義にリアル・コミュニケーションは必要か？ | 10. A L 模擬国会1 |
| 2. 座学 真理は存在するか、必要か？ ソクラテス イデアの哲学へ | 11. A L 模擬国会2 |
| 3. 座学 正義とは、正義など必要か？ プラトン『国家』 | 12. A L 模擬国会3 |
| 4. 座学 権力とは？ 権力の正当性とは、「正しい」権力とは？、権力=悪か？ | 13. A L 模擬国会4 |
| 5. 座学 ニコマコス倫理学 政局と政治 なぜ政局になるのか | 14. A L 模擬国会5 |
| 6. 座学 アリストテレス政治学 最高善と幸福、配分的正義 | 15. A L 模擬国会3 |
| 7. 座学 人は何故、競うのか ホッブスー知の最小単位からリヴァイアサンへ | |
| 8. 座学 ジョン・ロック 生得の知はあるか、「起源」の起源と「所有」について | |
| 9. 座学 文明とは墮落の過程 ジャン・ジャック・ルソー | |

試験（1月29日実施）

A L = Active Learning

■ 模擬国会 補足説明

- ① 履修者各自が特定の選挙区の国会代議士となり、
- ② 所属委員会を決定し、委員会での審議を通じ総会に法案を提出し、
- ③ 総会で法案趣旨説明のスピーチを実施し、
- ④ ポータルサイトを通じて法案に対する投票を実施する

委員会は、

人口減少・少子化対策委員会、
格差社会問題委員会、
極点社会・里山資本主義問題委員会、
歴史認識委員会、
安全保障問題委員会、
エネルギー問題委員会

学生は一定の人数要件を満たせば、これ以外の委員会を設置できる



アクティブ・ラーニングを 大幅に導入した2016年



■ 2016年シラバス巻頭言

いよいよ、18歳の若者にも投票権が認められ、有権者として政治参加する時代となりました。政治学では、本年が我が国の政治史上、初めて18歳の有権者がデビューする年になったことを意識して、講座内容を編成することにしました。人はより深く感じたことだけを、より深く考えることができるものです。この講義では感じるからこそ考えるという機会が少しでも多くなるように工夫していきたいと思っています。さて、今年、有権者デビューをする君たちは、世間では「ゆとり世代」と称されており、余りその評判が良くありません。そのようなラベリングにうんざりしているのだということを君たちからよく聞かされています。ゆとり教育は正確には1996年生まれなのですが、その次は「さとり世代」などと言われ、これも余り評判が良くないです。

他方、有権者として今年、デビューすることになる君たちにとって選挙の争点など時事問題については判らないことが多いでしょう。というのはその多くは受験勉強に必要がないからです。大体、人工知能なら楽勝で解けそうな問題で成り立つ受験戦争の勝者など、これからいよいよ人工知能が様々な領域で人の知能労働を代替することになると言われる世の中で、今後、人材として役に立つ見込みなどあるのでしょうか？ 英語の偏差値は高いけど英語は話せない、ということは日本では普通の話です。

そもそも、「ゆとり教育」の推進を決めたのは日本の政治社会ですから、自分で育てておきながら随分と勝手なことを世の中は若者に言っているわけです。先生自身も、大学という場に身を置き、受験システムという日本の間違った人材育成システムの加担者になります。政治学では、こうした世の欺瞞に対峙し、これからの「解のない」時代と社会を生き抜いていかなければならない君たちに、少なくとも次のことを到達目標として授業をすすめていきます。①政治学の基本概念を理解し、②選挙制度の基本と現代社会の主要な問題や選挙の争点を理解し、③有権者として主体的に行動できるようになることです。

■ 2016年政治学 アクティブ・ラーニング前提

★ 序章 今、政治学を学ぶ訳

第1回 導入ワークショップ「君らの未来がやばくなってきた。誰が君たちの老後を守ってくれるのか？」
ゆとり？、格差拡大、下流老人、人口減少、自治体消滅、年金破綻、なくなる職業.....

課外活動の紹介 学生にいかにして問題意識のリンクを形成させるか

第2回 ワークショップ「「選挙に行かない男とは結婚しないほうが良い」をめぐって

★ 第二章 正義とは何か「未来は誰のために、何のためにあるのか、どうあるべきなのか」二つの正義観

第3回 人はポリス的動物か？ インターネット時代の個人主義と共同体主義 権力の正当(統)性とは何か？

第4回 プラトン『国家』・3つの正義についてのアンケートとグループ・ディスカッション

第5回 アイデア説とダイアローグ ソクラテスとプラトン

★ 第三章 人は何故、競うのか？ 政治がなくなる理由

第6回 幸福説と最高善 アリストテレス

第7回 アリストテレス ニコマコス倫理学－それでは政治について話すこととしよう

第8回 人は何故、競うのか トーマス・ホブス－知の最小単位からリヴァイアサンへ

第9回 正義とは何か ベトナムからの留学生とのグループ・ディスカッション

★ 第四章 激変期日本の政治主題を理解する

第10回 人口減少社会と地方創生、日本の国際化

第11回 日本の政党

第12回 デモの是非と政治における表現の自由

第13回 憲法改正草案を読む

■ 「選挙に行かない男とは結婚しないほうが良い」

「選挙に行かない男とは結婚しないほうが良い」という刺激的な文章を読ませ、グループでディスカッションをさせ、グループごとに報告をさせる。

18歳選挙権の問題も絡め、参政権についての意識を高めようという意図。決りネタだが、議論を盛り上げるには良い。例年、「選挙に行かない女」となら結婚しても良いのかという反論が女子から寄せられる。

ネタ依存による手法なので、教育方法として一般化はできないが、このような刺激的、論争的な文章を用いたアクティブ・ラーニングとして、次の点に今後のICT利活用についての可能性があると考えた。

1. 掲示板設定のようにして、批判、意見を次々と記入させることを、グループで競わせるとするのはどうだろうか。類似コメントは教員が削除するなど、ゲーム性を導入する。
2. 掲示板設定をすると、講義終了後に他の講義がさらにそれにレスをつけていくということが可能になる。こうすることで同一主題を異分野科目で共有する授業展開が可能になるのではないか？

■ プラトン『国家』・3つの正義についてのアンケート 説明文

説明文では 平易に、身近な表現を心がける

あなたにとって正義とはなんでしょうか？ 下記の中から選んで、その理由を書いてください。三つの中にないという人は、あなたにとっての正義について、記入してください。コメント欄は、少なくとも250文字以上書いてください。友人と議論しても良いですが、議論した結果、二人とも同じ見解になるということが良くあります。これだと、採点上、好ましくないなので、議論は良いけど、自分なりの考えを書いてくださいね。それから、あなたにとって身近な問題から考えましょう。人によって国際問題が身近な問題の人もいれば、電車に乗る時のマナーが日々、腹に立っているという場合もあるでしょう。そういう身近なところから、正義について考えましょう。しかし、政治学ですから年金問題とか、子育て少子化問題といった時事問題からがよりベターですね。

■ プラトン『国家』、3つの正義についてのアンケート 説明文

説明文では 平易に、身近な表現を心がける

- ① 妥協の産物ですよ。しいて言えば、合意されたこと、それが正義でしょう。始めに正義があるんじゃないくて、あとから決まっていく感じ。世の中、正義の定義にそんなにこだわってませんよ。
- ② 力の結果です。お金、地位、威厳、力には色々あるけど、結局、正義とは強者の決めるものです。
- ③ ルールです。一般的に言えば、法律です。法を守ること、それが正義でしょう。それ以上、それ以外のことについても正義について議論の余地はあるけど、答えなんかなさそうだなあ。
- ④ 私は、三つのうちの何れでもない。

参考 ①16 ②13 ③21 ④20 欠席12 合計82

■ 他の「講義科目」、「課外活動」との連携

「国際交流（ベトナム）」〔受入〕との連携

正義とは何か、どんなものかについて、ベトナムから来た留学生4名に報告をしてもらい、四つのグループに別れ、日本の学生と議論をする。そもそも、普段、考えてみたこともない、関心を持っていたわけでもないことについて、異文化の人の話を聞いてみる、議論してみるというのは、モチベーションの喚起になる。

「国際交流（ベトナム）」〔派遣〕との連携

人口減少社会と日本の国内産業市場の限界及び今後の日本にとっての世界市場（ASEAN）を講義、[アクティブ・ラーニング満載](#)のベトナム短期留学プログラムの準備講義とした。受講者からの短期留学参加者は5名（昨年度、同じ趣旨の講義を受講したもの3名を含む）

地方自治体による地域活性化フィールドワークへの参加

地方創生について「増田レボード」を配布、人口減少社会・自治体消滅の観点で講義。[富山県立山町でのインターカレッジ・コンペション](#)のフィールド・ワークに2016年履修者5名（現1・2年生）、2014～15年履修者6名（現2・3年生）参加。コンペには5名が参加。



反省と問題提起



■ 反省と問題提起 1

政治学をオーソドックスな事項を各講義に配列して講義することを完全に断念した。個々の学問にはディシプリンとしての概念図があり、講義ではその概念図の中の重要項目を網羅的に学生に講義することを目指すものであるが、それをやめにした。争点本位に講義を組み立てることを試してみた。

ディシプリンの概念の構成要素を網羅的に教えるのは学者の自己満足であり、学生は単に消化不足になるだけであり、しかも、殆どの学生は学者になるわけではなく、大学院に進学するわけでもない。

学生に意味がない講義は社会的にも意義がない講義になりかねないと考えようになった。

■ 反省と問題提起 2

アクティブ・ラーニングを一つの科目の中で完結した作品として構想することには限界がある。特に大学外との連携、社会実践の導入ということを考えると、時間割という枠内、 Semester という期間枠、キャンパス内・教室内という物理的・地理的な枠内でできることは限られる。

複数科目と連動、課外活動と連動ということになると、アクティブ・ラーニングそれ自体を単体の科目として評価することは不可能となる。今後、各科目は、むしろ、アクティブ・ラーニングへの踏み台となるのではないか。

一回の講義で教室内で完結し得るアクティブ・ラーニングもあるが、この場合、評価はコミュニケーション力の高いものが専ら高評価となる可能性がある。果たして、それだけが評価基準で良いのか、という問題点がある。

■ 反省と問題提起 3

今回、これだけアクティブ・ラーニングの実施を試みた結果、現状の大学教育では評価方法が「期末試験型」、「筆記試験主義」であるため、試験問題の作成が非常に困難になってしまった。そもそも、活動への参加の期間設定そのものが試験後であったり、外国であったりするるので、あらかじめ評価要件〔特に活動の期間設定と Semester 期間の関係〕まで、想定して組み立てる必要がある。アクティブ・ラーニングの志向を強めれば、それはギャップ・イヤー的なものになってくるので、正課としての評価概念とは、異なるものと考えたほうが良いのか、それとも、正課それ自体がギャップ・イヤー的な要素を強めたほうが良いのか、この境界線で教員は悩むことになると思う。

■ 反省と問題提起 4

今後、学年に応じたアクティブ・ラーニングの位置づけが必要になると考える。

初年時のアクティブ・ラーニングは、動機づけ、問題発見型、活動学習への踏切台であり、2年次がアクティブ・ラーニング実施の中心となり、これに対し、学生の活動型学習に対し、3年次は執行部・指導的な役割として関与する。

1年が参加、2年が参画、3年は指導という感じである。専門部ではアクティブ・ラーニングよりも専門知識の座学や各ディシプリンの網羅的な理解のための講座が必要であり、3年用のアクティブ・ラーニングというものは、1・2年次対象のアクティブ・ラーニングそのものの企画・開発・指導ではないだろうか。これはTA不足を補うものである。



ご静聴、ありがとうございました

